

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

| 視点                | 4年間の目標<br>(平成28年度策定)  | 1年間の目標  | 取組の内容   |  | 校内評価  |  | 学校関係者評価<br>(3月23日実施)  | 総合評価 (3月27日実施)  |   |
|-------------------|---|---|---|--|---|--|---|---|---|
|                   |   |   | 具体的な方策  | 評価の観点  | 達成状況  | 課題・改善方策等   |   | 成果と課題   | 改善方策等   |
| 1<br>教育課程<br>学習指導 | <p>①学習意欲や探究心を高める教育課程編成及び組織的、体系的な授業改善を推進する。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を通じて、生徒の主体性、リーダーシップを育成する。</p> | <p>①授業力の向上に向けた組織的な授業改善を推進する。</p> <p>①総合的な学習の時間における探究的な学習の充実を図る。</p> <p>①理数分野の興味・関心を高め、科学的リテラシーの涵養を図る。</p> | <p>①主体的・対話的で深い学びを基にした授業改善に向け、職員研修会や公開研究授業を実施する。</p> <p>①総合的な学習の時間における探究活動を充実させる。</p> <p>①理数分野への興味関心を高めるため、外部の研究機関との連携を図る。</p> | <p>①生徒による授業評価の項目における「生徒主体の授業」の数値を上げることができたか。</p> <p>①総合的な学習の時間において、探究的な学びにふさわしい活動ができたか。</p> <p>①外部機関との連携活動後の生徒のアンケートでの肯定的な回答が80%以上得られたか。</p> | <p>・数値に大きな変化はなかったが、そのデータを基に、授業改善について意見交換を行った。</p> <p>・課題研究活動について、考察、研究、問題解決までのプロセスを学ばせることができた。</p> <p>・島津製作所との連携を進めることができ、約95%の肯定的な回答を得ることができた。</p> | <p>・生徒の主体性を引き出す授業についての研究協議を継続する。</p> <p>・課題設定から考察、研究や問題解決までの自主的な取り組みを支援する教員側の体制を構築する必要がある。</p> <p>・引き続き、多くの企業等との連携を模索していく。</p> | <p>・課題解決、課題探究の学習は、社会において必要な力なので期待している。</p> <p>・企業訪問等により社会人の話を聞くことはとても効果がある。</p> | <p>・総合的な学習の時間における探究活動の2か年の計画を作成することができた。</p> <p>・理数分野への興味関心を高めるため、外部の研究機関との連携を図ることができた。</p> | <p>・課題探究活動を一層推進するために、職員の指導内容の共有化を図る。</p> <p>・大学の研究室との連携などを含め、多くの企業等との連携を模索していく。</p> |
| 2<br>生徒指導・支援      | <p>①社会の一員としての規範意識や公共心、豊かな人間性を育成する。</p> <p>②生徒一人ひとりの実態や特性に応じたきめ細かい支援体制を構築する。</p>             | <p>①学校行事や部活動等を通して集団としての規範意識や公共心を高める。</p> <p>②生徒一人ひとりの実態や特性を把握し、よたきめ細やかな支援を行う。</p>                         | <p>①生徒の自主的な活動を支援して学校行事や部活動等の活性化を図る。</p> <p>②課題の解決を図るため、スクールカウンセラーとの情報交換を基にケース会議を充実させる。</p>                                    | <p>①学校行事や部活動等を通して生徒の規範意識等を高めることができたか。</p> <p>②スクールカウンセラーからの情報がケース会議等で有効に活用されたか。</p>  | <p>・登校時指導や遅刻指導、服装指導、交通安全指導などを計画に基づいて実施することができた。</p> <p>・外部講師を招いてのケース会議を開くなど、カウンセラーと養護教諭、教育相談コーディネーターの連携を深めて、効果的な支援ができた。</p>                         | <p>・特に自転車事故ゼロを目指して今後とも指導を工夫していく必要がある。</p> <p>・カウンセリングを必要とする生徒は多く、カウンセラーの担当時間を増やして十分な対応ができるようにする。</p>                           | <p>・大きな事故には至っていないが、学校周辺の狭い路地での走り方など、自転車運転のマナーの悪さが気になる。</p>                      | <p>・ケース会議に外部の有識者を招き、生徒の支援に役立てることができたが、カウンセリングを必要とする生徒が多く、時間の確保が今後さらに必要である。</p>              | <p>・スクールカウンセリングの来校日の調整等を含め、生徒への支援の充実を図る。</p>  |

|   | 視点           | 4年間の目標<br>(平成28年度策定)                               | 1年間の目標   | 取組の内容  |  | 校内評価   |  | 学校関係者評価<br>(3月23日実施)   | 総合評価(3月27日実施)  |  |
|---|--------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|   |              |  |  | 具体的な方策   | 評価の観点  | 達成状況   | 課題・改善方策等   |  | 成果と課題  | 改善方策等  |
| 3 | 進路指導・支援      | 生徒一人ひとりのキャリア発達を促すとともに、第一進路希望を実現させる進路指導体制の一層の充実を図る。 | ○現役での進路希望の実現の支援のために、キャリアカウンセリングを充実させる。                 | ○全国規模の模擬試験のデータを有効に活用した進路指導やカウンセリングを実施する。                           | ○模擬試験のデータを有効に活用した進路指導やカウンセリングが実施できたか。<br>○難関国公立大学10名以上、SGUトップ型(スーパーグローバル大学)の現役進学率25%以上が達成できたか。 | ・実力試験の振り返りを通して学習や進学への意識を高めることができた。<br>・目標の数値は達成されなかったが、生徒の進路希望の実現に向けて、自主的・計画的・継続的な学習態度を育成することができた。 | ・面談の機会をより多く持ち、授業での教科の弱点分野の強化などをさらに進めていく。<br>・早い時期に意識付けを行うことで、難関国公立大学やSGUトップ型への進学率が上がるよう工夫する。 | ・生徒のニーズに合った指導がなされていることは評価できる。<br>・個々生徒のモチベーションの上げ方に工夫必要ではないか。                      | ・SGUトップ型大学の現役進学率において、目標とした数値を達成することができなかった。                                  | ・直接生徒に働きかける、進学に向けた取組を行うとともに、全生徒に対して、学年の早い時期から、進学にむけた意識付けを行う。 |
| 4 | 地域等との協働      | 外部への情報発信を拡充するとともに、地域を始め、保護者・同窓会との連携・協働を一層推進する。     | ○地域の大学や研究機関等との連携・協働した取組みを推進させる。<br>○地域へ貢献できる学校づくりを目指す。 | ○地域の教育力の活用を目指し、近隣の大学や研究機関等との連携を図る。<br>○学校行事や生徒会活動により、地域の貢献活動を推進する。 | ○外部機関との連携活動後の生徒のアンケートでの肯定的な回答が80%以上得られたか。<br>○学校行事や生徒会活動により地域の貢献活動が実施できたか。                     | ・東海大学の留学生を招き、交流会を開催し、99%の肯定的な回答が得ることができた。<br>・地域の夏祭りへの参加や、周辺校との合同発表会を催した。<br>・地域との合同避難訓練を実施した。     | ・取組内容がより充実するよう、実施方法や日程などを検討する。<br>・生徒への周知の方法を検討し、多くの生徒が関わることができるように工夫する。                     | ・地域の夏祭りなどの生徒が参加してくれることに感謝している。<br>・平塚江南高校のグラウンドは地域の避難所に当たっているので、今後も避難訓練には参加していきたい。 | ・東海大学の留学生との交流会により地域の教育力の活用を図ることができた。<br>・DIGを活用した避難訓練に地域の方が参加し、充実した防災訓練となった。 | ・より効果的な取組となるよう連携内容の充実を検討する。                                  |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | 事故・不祥事を防止するとともに円滑で効率的な学校運営に努め、県民から信頼される学校づくりを推進する。 | ○職員一人ひとりの事故防止への意識の向上を図る。<br>○安全で快適な学習環境の確保に努める。        | ○事故防止会議や日常の注意喚起により事故の未然防止に努める。<br>○施設の修繕とともに清掃活動の充実を図る。            | ○入学者選抜業務を含め、事故ゼロが達成できたか。<br>○施設整備の修繕等に迅速に対応できたか。   | ・成績処理に関するマニュアルの整理により、入学者選抜業務を含め、事故ゼロが達成できた。<br>・清掃活動を含め、安全で快適な学習環境整備を行うことができた。                     | ・マニュアルの改訂作業を順次進めるとともに、職員相互の声かけをより活発に行う。<br>・今後とも施設管理は必要に応じて迅速に対応していく。                        | ・施設が老朽化している現状は理解できる。事故等には十分に気を付けてもらいたい。  | ・入学者選抜業務を含め、全ての業務において事故防止に努めることができた。   | ・業務マニュアルの見直し等、今後とも事故防止への意識を高めていく。                            |